

## 令和3年度リーグ戦の方向性

現在学連で検討している本年度リーグ戦の指針が以下になります。臨時総会当日これをもとに議論致しますので、必ずご覧ください。

また以下の内容は全て予定であり、確定しておりません。加盟校の皆様と意見を交わしたうえで決めたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

### 1. 日程（予定）

- リーグ戦第1日目：10月3日（土）
- リーグ戦第2日目：10月4日（日）
- リーグ戦第3日目：10月10日（土）
- リーグ戦第4日目：10月11日（日）
- リーグ戦第5日目：10月17日（土）
- リーグ戦第6日目：10月18日（日）
- リーグ戦第7日目：10月24日（土）
- リーグ戦第8日目：10月25日（日）
- リーグ戦第9日目：10月31日（土）
- リーグ戦第10日目：11月1日（日）

今年のリーグ戦は土曜日、日曜日の両日で試合を行います。

土日に連続で試合を行う場合もございます。

今後の状況次第で変更となる可能性があります。

### 2. 方式

#### a. 会場

各大学のホーム道場でそれぞれ付け矢、試合共に引いていただきます。

的中を共有して勝敗を決めます。

#### b. 立ち合い

α.立ち合いが道場に立ち入ることができる場合、第三者の大学が試合に立ち合います。

β.部外者が大学構内に入れないなどの理由で立ち合いを派遣できない場合、zoomを用いてリアルタイムで試合を撮影、共有します。

#### c. 付け矢

男子の試合の付け矢の時間を短縮し、女子の試合の付け矢の時間に合わせます。

d. 立ちの順番

男子の試合は両校の立ちが同時に引くこととします。

3. 結果について

- ・本年度のリーグ戦においては、昇格降格を問わず、一切の入替を行いません。
- ・試合結果によって、1位～5位までの順位を決めます。
- ・その部全体で、8割以上の大学が参加した場合、原則としてその部の順位は来年に引き継ぐものとします。
- ・以下にあるように、ブロック間の均衡を図る目的で編成を調整した場合、その順位は来年に引き継ぎません。

4. ブロック間の均衡について

同部異ブロック間でリーグ戦参加校数に著しい不均衡が生じた場合、編成を調整して試合数の均衡を図る場合があります。

5. 中止判断について

現時点でリーグ戦の開催は確定しておらず、直前になって中止を判断する可能性がごあります。

中止の判断を下す基準としては、リーグ戦の不参加校数によって判断します。

**また以下にこのような指針に至った経緯をそれぞれについて示します。**

1. 日程について

- ・7月現在で練習再開の日程が未定の大学が多数存在する。通常通りの日程でリーグ戦を開催すると練習期間が満足に取れていない大学やそもそもリーグ戦に参加できない大学が多く生じることから、日程を可能な限り後ろ倒しにする。
- ・伊勢大会が中止となったことから、日程を後ろ倒しにする余裕がある。
- ・全関東大会の予選が11月第2週にあることから、リーグ戦を最大でも11月第1週までに終わらせたい。
- ・よって逆算して、9月の最終週からリーグ戦を開始することとする。
- ・ホーム戦の道場で試合を行わなければいけない以上、土日両日で試合を行うことが必要となる。
- ・今後の新型コロナウイルスの見通しがつかないため、試合日程を詰めて空き週を増やすことで大会日程に余裕を持たせることが必要である。

2. 方式について

a. 会場

- ・例年加盟校から道場を借りて、全ての試合を行っている。
- ・しかし今年は大学側から許可が出ないなどの理由で道場の数が試合数に対して圧倒的に不足する。
- ・よって各加盟校がそれぞれのホーム道場で引くことが最も現実的かつ唯一の方法であると考えます。
- ・大学に道場を持たない大学に関しては、基本的には各大学で道場を調達してもらう、道場が準備できなかった場合は道場の貸し出しが可能ないくつかの大学で引いてもらうことと現在では検討している。
- ・当分まともな方式で大会が行える見通しが立たない以上、このような形でも大会を行うことは今後の学生弓道のためになる。

b. 立ち合い

- ・上記の方法で試合を行う場合、お互いの的中を直接見ることができないため、的中の信用性が担保できない。
- ・よって第三者の大学からなる立ち合いをそれぞれの道場に派遣することで的中の信用性を担保する。
- ・しかし、大学構内や道場内に部外者が立ち入れないという制限がかかっているため、立ち合いを派遣できない可能性がある。
- ・よってもし立ち合いを派遣できない場合、試合の様子を撮影、zoom などを用いてリアルタイムでその様子を第三者の立ち合い及び対戦校に相互に共有する方式をとる。

c. 付け矢

- ・大学に道場がない大学が試合を行う場合、道場を貸し出すことが必要となる。
- ・女子の試合であれば午前中に試合を行い、午後に貸し出すとすることができる。
- ・しかし男子の試合は例年通りの流れだと一日かかってしまい、他校に道場を貸し出すことができない。
- ・よって付け矢の時間を女子と同じ時間まで短縮することとする。

d. 立ちの順番

- ・上記の付け矢と同じ理由から、男子の立ちを一の立ち同士、二の立ち同士で同時に引くことによって時間の短縮を図る。
- ・以上の二点は大学から道場利用の時間制限を受ける大学が発生することも予想されることから、これの対策にもなる。

3. 結果について

- ・東京都学生弓道連盟規約によると、リーグ戦に不参加とした大学は自動的に降格することとなっている。

- ・しかし今年は大学から活動を禁止されているなどの理由で自らの意思と関係なくリーグ戦に参加できない大学が複数あることが予想される。
- ・また加盟校間で練習可能期間に著しい差異が生じていることも考慮し、今年は一切の降格を行わないこととする。
- ・学連では選手のインセンティブの確保という目的などから、昇格あり降格なしという方式についても検討した。
- ・検討した結果、昇格あり降格なしルールが却下された理由が以下となる。

- ・来年のリーグの運営に重大な支障を来すこと
- ・リーグ戦の最中に体調不良の部員が出て棄権するなどの理由から正常な流れのリーグ戦を行えない可能性があること
- ・そもそもコロナウイルスや大学からの要請といった加盟校単位ではどうしようもない外的な要因がリーグを跨いだ入れ替えという結果に表れるのは健全でないこと
- ・練習期間の差といったところから生じる不公平さの解決にはならないこと。

- ・故に入れ替えは全て無しにすることとする。

・一方最低限のリーグとしての体裁を保ち、来年に引き継がれるものとしてのリーグ戦の伝統性を貫くために今年の大大会は行いたく、故に順位に関しては原則として今年の大大会の結果を引き継ぐこととする。

・ただし、ブロック内で棄権校が多数発生するなどした場合はそれによって行われた大大会の結果は各大学の実力を正確に再現しているとはいえない。

・よって基準として、部全体で8割以上の大学が参加（各ブロックで不参加校が1校程度に収まる）した場合は結果を引き継ぎ、不参加校の数が基準を上回った場合は原則としてリーグの結果は来年に引き継がないこととする。

#### 4. ブロック間の均衡について

- ・本年度のリーグ戦において不参加の大学が多く発生する可能性がある。
- ・その結果、同部異ブロック間で参加校数、試合数に偏りが起こる可能性がある。（例：男子Ⅲ部 A ブロックは4校参加で3試合行えるが、男子Ⅲ部 B ブロックは1校しか参加できず、試合が行われない。）
- ・このような事態が発生した場合、参加できるのにも関わらず試合をすることができない大学を救済するため、ブロックを統合したり、調整して試合数の均衡を図ることを検討している。

（例：男子Ⅲ部を統合し、5校に組み直して4試合行えるようにする/A ブロック4校とBブロック1校をAブロック3校、Bブロック2校に調整して、両ブロックの試合

数の均一化を図る。)

- ・このような調整を図った場合、リーグ内の順位が複雑なことになってしまうので、特例として昨年度時点でのリーグ編成を持ち越して来年度のリーグ編成を決めることとする。

#### 5. 中止判断について

- ・リーグ戦に参加できる大学数があまりにも少ないと判断される場合、リーグ戦としての体裁を保てないとしてリーグ戦の中止を判断する場合がある。

- ・開催した場合でも、その後の状況次第でリーグ戦を中止する判断を下す可能性がある。